

# 総合型地域スポーツクラブに関する研究

## —保護者からみた期待度と満足度—

Research on Comprehensive sports clubs  
—Expectation and satisfaction rating seen from guardian—

加藤 弘  
KATO Hiroshi  
(和歌山大学教育学部)

杉若 裕介  
SUGIWAKA Yusuke  
(和歌山大学教育学部)

本研究では、AスポーツクラブとBスポーツクラブの2つの総合型地域スポーツクラブを対象に、会員の保護者側からみた子どものスポーツ活動に対する期待と満足度について調査を行った。両クラブの特徴は、Aスポーツクラブが平成14年（2002年）に和歌山県で最初に総合型地域スポーツクラブとして設立され、以来、5年間活動をつづけているのに対し、Bスポーツクラブは設立準備段階としての活動を続けている。両クラブを比較した結果、子どものスポーツ活動に対する保護者の期待度は、「社会性・集団行動の理解」という項目において明らかな差異が認められた（ $p < 0.05$ ）。また、子どものスポーツ活動に対する保護者の満足度については、「大会・試合に参加する機会」の項目で明らかな差異が認められた（ $p < 0.05$ ）。

**キーワード：**総合型地域スポーツクラブ、保護者、期待度、満足度

### 1. はじめに

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、“我が国の子どもの体力は、昭和60年頃から長期的に低下傾向にあるとともに、体力が高い子どもと低い子どもの格差が広がっている”と記されている。その背景には、子どもの体力の低下や体を動かす量が減少したことによるものと考えられるが、子どもの体力に対する国民意識への問題があると指摘されている。“保護者をはじめとした国民意識の中で、体や精神を鍛え、思いやりの心や規範意識を育てる効果のある外遊びやスポーツの重要性を、学力に比べ軽視する傾向が進んだ”という文部科学省の指摘もある。

このような状況に対して、文部科学省は、平成12年（2000年）<sup>3)</sup>のスポーツ振興基本計画の中で、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策を掲げ、政策目標達成のための必要不可欠である施策の1つとして総合型地域スポーツクラブの全国展開を推進している。文部科学省が平成7年（1995年）度から実施している総合型地域スポーツクラブは、スポーツ振興基本計画で掲げている、「地域におけるスポーツ環境の整備充実方策の実現を目指す際の中心的施策」である。子どもから大人まで誰もが生涯にわたり、いつでもどこでもスポーツを楽しむことができる受け皿の1つとして総合型地域スポーツクラブの設立が重要な課題となっている。また、文部科学省はスポーツ振興基本計画の中で、“保

護者をはじめとした国民意識の中で、子どもの体力の低下とその及ぼす影響に対する認識が十分ではなく、保護者をはじめとした国民全体が、子どもの体力の重要性について正しい認識を持つよう、国民の意識の一層の喚起を行うことが求められている”、と述べている。

これまで、総合型地域スポーツクラブに関する研究は、富山（2002）<sup>4)</sup>による地域スポーツクラブ参加と地域社会への態度、黒須（2003）<sup>2)</sup>による総合型地域スポーツクラブと学校体育との関係、川西（2004）<sup>1)</sup>による総合型地域スポーツクラブにおけるリスクマネジメントなど幅広い視野から行われている。しかし、子どものスポーツ活動に対する保護者側のクラブへの期待度と満足度による調査は少ない。

本研究では、文部科学省のモデル事業として和歌山県内の総合型地域スポーツクラブの第1号として設立されたAスポーツクラブと、設立準備段階にあるBスポーツクラブに着目した。そして、これら設立済みのAスポーツクラブと設立準備段階にあるBスポーツクラブの会員の保護者側からみた子どものスポーツ活動に対する期待度と満足度について、保護者が総合型地域スポーツクラブに何を求めているのかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

### 2. 1. 調査対象クラブ

#### 【Aスポーツクラブ】

Aスポーツクラブは、文部科学省のモデル事業として和歌山県内の総合型地域スポーツクラブの第1号として平成14年（2002年）に設立された。現在、14種目の教室を開いており、会員数は約300人、小学生会員数は約210名と全体の会員数の約7割を占めている。このクラブは、「地域の子供たちのスポーツ環境を整えよう」「地域の皆さんの健康づくりのお手伝い」「スポーツ文化を通して明るく元気のあるまちづくりに寄与する」を理念に活動している。

#### 【Bスポーツクラブ】

Bスポーツクラブは、総合型地域スポーツクラブ設立に向けて活動している準備段階にあるクラブである。現在、10種目の教室を開いており、会員数は約290人で、小学生会員数は約90名と全体の会員数の約3割を占めている。このクラブは、健康づくりからアスリートまで育てる目的をもち、競技力重視にも力を入れて活動している。地域のスポーツ大会やスポーツイベントに関連した活動も行っている。

### 2. 2. 調査方法と実施時期

調査は、郵送法による質問紙調査を行った。対象は、小学生会員の保護者である。

Aスポーツクラブに対しては平成19年（2007年）8月下旬、Bスポーツクラブについては11月上旬に実施した。

配布数は、両クラブに対し100部を配布した。その結果、回収数は、Aスポーツクラブ：44部、Bスポーツクラブ：66部であり、すべてを有効回答とした。

### 2. 3. 調査内容

調査内容は、保護者側からみた子どものスポーツ活動への期待度と満足度についてである（表1、表2.）。

クラブ会員の親側からみた子どものスポーツ活動に対する期待度と満足度について、各項目の尺度を「1. 全く期待していない」「2. あまり期待していない」「3. ふつう」「4. やや期待している」「5. 非常に期待している」、また「1. 不満足である」「2. やや不満足である」「3. ふつう」「4. やや満足している」

表1. 子ども（クラブ会員）に関する調査

要因群	質問項目
属性	①性別②年齢、学年③兄弟構成
活動状況	①所属サークル種目・教室 ②クラブ以外でのスポーツ歴、種目、経験年数、競技レベル ③クラブとの両立④加入した年 ⑤加入のきっかけ

表2. 子ども（スポーツクラブ会員）の保護者に関する調査

要因群	質問項目
属性	①性別②年齢③職業④最終学歴
活動状況	①所属サークル種目・教室 ②過去のスポーツ歴、種目、経験年数、競技レベル
クラブに対する期待と満足度（36項目）	「非常に期待している」から「全く期待していない」の5段階評価 「非常に満足している」から「不満足である」の5段階評価

「5. 非常に満足している」の評定順に、それぞれ1から5の得点を与え間隔尺度を構成するものと仮定して、各項目の平均値を算出し、期待度と満足度において平均値に差があるかどうかを見るために、対応のあるt検定により両群間で比較した。

### 2. 4. 分析方法

質問の各項目について平均値および標準偏差を算出し、両クラブを比較するのに、t検定を行なった。

## 3. 結果の概要

### 3. 1. 質問紙調査対象者の特性

表3、4は、質問紙調査対象者の特性を示している。Aスポーツクラブにおいて、男性：20.5%、女性：77.3%であった。年齢では、20代：6.8%、30代：50.0%、40代：38.6%、50代：0.0%、60代：2.3%であった。

Bスポーツクラブでは、男性：15.2%、女性：84.8%であった。年齢では、20代：3.0%、30代：66.7%、40代：24.2%であった。

表3. サンプル属性（Aスポーツクラブ）

n=44	n	%
[性別]		
男	9	20.5
女	34	77.3
N.A.	1	2.3
[年齢]		
20代	3	6.8
30代	22	50.0
40代	17	38.6
50代	0	0.0
60代	1	2.3
N.A.	1	2.3
[職業]		
会社員	5	11.4
公務員	6	13.6
自営業	3	6.8
教員	1	2.3
専業主婦	13	29.5
パート勤務	15	34.1
N.A.	1	2.3

表4. サンプル属性 (B スポーツクラブ)

n=66	n	%
[性別]		
男	10	15.2
女	56	84.8
[年齢]		
20代	2	3.0
30代	44	66.7
40代	16	24.2
N.A.	4	6.1
[職業]		
会社員	6	9.1
公務員	2	3.0
自営業	4	6.1
専業主婦	22	33.3
パート勤務	28	42.4
無職	2	3.0
その他	2	3.0

### 3. 2. 2 クラブ間における、会員の保護者側からみた子どものスポーツ活動に対する期待度の比較

表5は、両クラブ会員の保護者側からみた子どものスポーツ活動に対する期待度について平均値で比較した。その結果、「社会性・集団行動の理解」の1項目において、Aスポーツクラブ：3.86±0.77、Bスポーツクラブ：4.19±0.74であり、明らかにBスポーツクラブの方が高い得点を示した ( $p < 0.05$ )。

また、「礼儀などの人格形成」「クラブ会員のスポーツへの意識関心の高まり」「仲間作り」「専門種目の技術向上」の4項目については、Aスポーツクラブの保護者側の方がBスポーツクラブよりも平均値が高い傾向を示していた。

### 3. 3. 2 クラブ間における、会員の保護者側からみた子どものスポーツ活動に対する満足度の比較

表6は、両クラブ会員の保護者側からみた子どものスポーツ活動に対する満足度について平均値で比較した。その結果、「大会・試合への参加する機会」の1項目において、Aスポーツクラブ：3.29±0.77、Bスポーツクラブ：3.77±0.95であり、明らかにBスポーツクラブの方が高い得点を示した ( $p < 0.05$ )。

また、「礼儀などの人格形成」「クラブ会員のスポーツへの意識関心の高まり」「専門種目の技術向上」の3項目については、Aスポーツクラブの保護者の方が高い得点を示す傾向となった。以上のことから、Aスポーツクラブ会員の保護者においては、「礼儀などの人格形成」「クラブ会員のスポーツへの意識関心の高まり」「専門種目の技術向上」について期待度とともに満足度も高いことがうかがえる。

表5. 2 クラブ間の子どものスポーツ活動に対する期待度のt検定

	クラブ名	N	mean	S.D.	t 値	P
クラブ会員のスポーツへの意識関心の高まり	Aスポーツクラブ	44	4.05	0.78	0.90	n.s.
	Bスポーツクラブ	64	3.91	0.81		
地域内全体のクラブへの関心への高まり	Aスポーツクラブ	43	3.70	0.74	-0.77	n.s.
	Bスポーツクラブ	64	3.81	0.77		
体力づくり	Aスポーツクラブ	44	3.84	0.81	-1.22	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	4.03	0.79		
健康の保持増進	Aスポーツクラブ	44	3.77	0.71	-1.56	n.s.
	Bスポーツクラブ	58	4.00	0.75		
専門種目の技術向上	Aスポーツクラブ	44	4.00	0.91	0.38	n.s.
	Bスポーツクラブ	60	3.93	0.86		
仲間作り	Aスポーツクラブ	44	4.18	0.79	0.96	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	4.03	0.79		
子ども同士のコミュニケーション力	Aスポーツクラブ	44	4.07	0.82	-0.58	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	4.16	0.81		
幅広い年代とのコミュニケーション力	Aスポーツクラブ	44	3.93	0.93	-0.95	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	4.10	0.82		
社会性・集団行動の理解	Aスポーツクラブ	44	3.86	0.77	-2.21	*
	Bスポーツクラブ	62	4.19	0.74		
礼儀などの人格形成	Aスポーツクラブ	44	4.18	0.81	0.71	n.s.
	Bスポーツクラブ	60	4.07	0.82		
プロ選手としての育成	Aスポーツクラブ	44	3.30	1.02	-1.09	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	3.52	1.02		
多項目への参加	Aスポーツクラブ	44	3.23	0.74	-1.06	n.s.
	Bスポーツクラブ	60	3.40	0.92		
大会、試合への参加する機会	Aスポーツクラブ	43	3.58	1.01	-1.73	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	3.90	0.82		

n.s.  $P \geq .05$  \*  $P < .05$

表6. 2 クラブ間の子どものスポーツ活動に対する満足度のt検定

	クラブ名	N	mean	S.D.	t 値	P
クラブ会員のスポーツへの意識関心の高まり	Aスポーツクラブ	43	3.81	0.82	-0.29	n.s.
	Bスポーツクラブ	60	3.77	0.81		
地域内全体のクラブへの関心への高まり	Aスポーツクラブ	40	3.45	0.75	-0.54	n.s.
	Bスポーツクラブ	60	3.53	0.77		
体力づくり	Aスポーツクラブ	43	3.74	0.88	-0.58	n.s.
	Bスポーツクラブ	64	3.84	0.88		
健康の保持増進	Aスポーツクラブ	43	3.81	0.76	-0.12	n.s.
	Bスポーツクラブ	60	3.83	0.87		
専門種目の技術向上	Aスポーツクラブ	42	3.79	0.92	-0.48	n.s.
	Bスポーツクラブ	60	3.70	0.87		
仲間作り	Aスポーツクラブ	43	3.79	0.86	-1.42	n.s.
	Bスポーツクラブ	64	4.03	0.85		
子ども同士のコミュニケーション力	Aスポーツクラブ	43	3.70	0.89	-1.71	n.s.
	Bスポーツクラブ	64	4.00	0.91		
幅広い年代とのコミュニケーション力	Aスポーツクラブ	43	3.56	0.91	-1.62	n.s.
	Bスポーツクラブ	64	3.84	0.88		
社会性・集団行動の理解	Aスポーツクラブ	43	3.53	0.80	-1.05	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	3.71	0.89		
礼儀などの人格形成	Aスポーツクラブ	43	3.70	0.80	-1.42	n.s.
	Bスポーツクラブ	64	3.47	0.84		
プロ選手としての育成	Aスポーツクラブ	42	3.29	0.83	-0.87	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	3.42	0.67		
多種目への参加	Aスポーツクラブ	43	3.28	0.63	-0.80	n.s.
	Bスポーツクラブ	62	3.39	0.75		
大会、試合への参加する機会	Aスポーツクラブ	42	3.29	0.77	-2.88	*
	Bスポーツクラブ	62	3.77	0.95		

n.s.  $P \geq .05$  \*  $P < .05$ 

#### 4. 考察

本研究では、総合型地域スポーツクラブに参加している子ども達の保護者を対象にして、子どものスポーツ活動に対する期待度と満足度について調査を進めてきた。

対象としたスポーツクラブは、文部科学省のモデル事業として和歌山県内の総合型地域スポーツクラブの第1号として平成14年（2002年）に設立され活動も軌道に乗っているAスポーツクラブと、総合型地域スポーツクラブ設立を目指して活動を始めたばかりのBスポーツクラブである。

Aスポーツクラブの設立目的は、「競技力は特に重視せず、地域の子どものスポーツ環境を整えようという」ものであり、一方、Bスポーツクラブは「競技力を重視し、競技力と共に人間性を学ぶ場とする」ものであり、保護者も「学校での部活動的存在」として大きく期待しているという事情を有していた。このような両スポーツクラブの設立目的の違いが本研究の調査結果にも反映されていた。

子どものスポーツ活動に対する期待度（13項目）のうち9項目においてBスポーツクラブの方が高い得点を示したことは、保護者のクラブへの期待を反映している。これは、上述した「学校での部活動的存在」という点であり、「スポーツに親しんで欲しい」といった期待を超えるより強い期待となって現れたものと考えられる。特に、明らかな差（ $P < 0.05$ ）となった「社会性・集団行動の理解」の質問項目は象徴的である。

日本の学校教育においても、「教える」ことが中心となっており、「子ども達が活動の中で身に付けていく」という視点はともすると希薄となりがちであることは否めない現状である。一方、「礼儀などの人格形成」「クラブ会員のスポーツへの意識関心の高まり」「仲間作り」「専門種目の技術向上」の4項目では、Aスポーツクラブの保護者側の方がBスポーツクラブより平均値が高い傾向を示していた。このことは、どちらかという穏やかな期待度をAスポーツクラブの保護者達が有しているといえる。

次に満足度については、期待度と同様、Bスポーツクラブの方が高い得点を示した項目が多い（13項目中10項目）。総じて、期待度も高ければ満足度も高いという現状を、Bスポーツクラブの保護者達が示している。そして、満足度において唯一明らかな差を認めた「大会・試合への参加する機会」（ $P < 0.05$ ）ということとは、上述の「学校での部活動的存在」という考え方が反映されており、「スポーツは大会・試合で成果を試すのは当然」という至極一般的な考え方であると思われる。

Aスポーツクラブにおいては、期待度および満足度ともにBスポーツクラブより高い得点傾向を示した質問項目が、「礼儀などの人格形成」「クラブ会員のスポーツへの意識関心の高まり」「専門種目の技術向上」となっていた。このことは、Aスポーツクラブの実際の活動が、これらの項目に即した活動内容であることを反映したものである。

これまで、スポーツ指導の中核となっていた学校教

員の減少により、今後、総合型地域スポーツクラブの存在はますます高まると予想される。そこには、地域住民からの要求を十分配慮した取り組みが求められ、それぞれの特徴が育まれていくことの一端を本研究で明らかにすることができた。

#### 参考文献

- 1) 川西正志 北村尚浩 森谷友一朗 (2004) 総合型地域スポーツクラブにおけるリスクマネジメント 日本体育学会第55回大会 体育社会学専門分科会発表論文集PP156-161
- 2) 黒須充 (2003) 総合型地域スポーツクラブと学校体育 日本体育学会大会号
- 3) 文部科学省 スポーツ振興基本計画 (2002)
- 4) 富山浩三 (2002) 地域スポーツクラブ参加と地域社会への態度 日本生涯スポーツ学会第4回大会P60